

住民主体の町づくりをめざして

平成十一年度「小野川と佐原の町並みを考える会」の総会を五月十三日、割烹宮定で開催しました。

総会は、就任二年目を迎えた加瀬代表世話人の挨拶で開会。十年度の事業と会計報告が承認された後、本年度事業計画と予算について、全員の賛成で可決されました。（本年度予定事業）

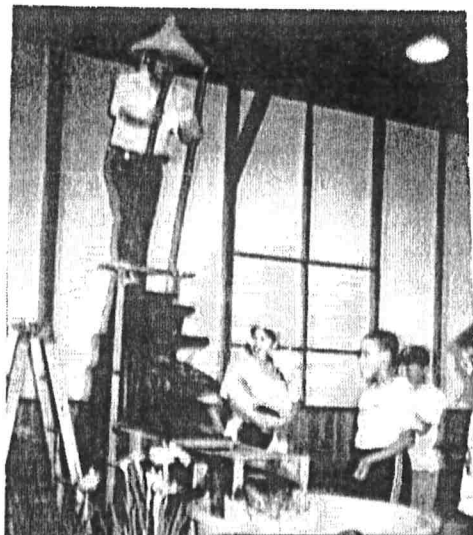
・地区内への緊急車両進入障害の対策
・会員の増強、保存会との共同会議
この他にも、●町並み案内研修と受入れ対策●誘導サインの検討●小野川清掃、ゴミステーションの美観対策●瓦版の発行、機関誌やパンフの立案●町並み案内地図の統一への働きかけ●三菱館の管理運営の充実などに取り組む。



活動に向けて来賓の方々から力強い激励をいただく

総会後、谷田川県議、永野建設部長（市長代理）、菅井商工会議所会頭、宮本水郷佐原観光協会会長、谷田部小江戸佐原会会長、村松青年会議所理事長の方々に来賓にお迎えして、懇親会を開催。なごやかな雰囲気の中にも、建設的な意見交換がなされるなど、熱気に満ちた懇親会となりました。

小江戸佐原の歴史文化を探訪 好評だったスタンプラリー



正上穀倉での水車の体験

サテライト会場となった正上穀倉、福新呉服店、三菱館、馬場酒造、清宮邸土蔵と、それぞれの場所で佐原の時代の流れを表わす催し物があり、昔懐かしいノスタルジアと共に先人の生活の知恵に感動する姿が見られた。



「あの絵がこの彫り物に・・・」感嘆の声

小江戸と言われている町並みの中で、普段立ち入る事の出来ない土蔵や、商家の中庭も見学出来る。六月十二日、十三日は、祭りを思わせる人出で賑わった。観光客も多かったが、地元の人達の関心も深く、スタンプラリーの用紙を持って大勢回遊していた。

メイン会場の与倉屋大土蔵には、下新町の山車の彫刻二十五枚が飾られ、その原図である歌川国芳の水滸伝の絵が、一枚毎に比較展示され、入場者の注目を集めた。原図から立体的になり、迫力ある彫り物になった様子に感嘆。この絵すべてを探し求めた与倉屋

町並み誘導マップの効果上がる

「こんなに江戸情緒ある町並みを知らずに帰ってしまうところでした。来て良かった。」という声を、最近耳にすることが多い。香取神宮の総門の下と水生植物園の入口で商工会議所が配布した町並みへの誘導マップと飴を手にした観光客が、そくそくと町並みを散策する姿が目についた。

車も案内通り忠敬記念館駐車場に流れ、附近は渋滞が続く程であった。六月の土・日曜は、銀行の駐車場や佐原小の体育館校庭を開放して対応している。初夏の日差しを浴びて、緑の柳越しに瓦と格子の町並みを見ながら、観光客が往き来するシーズン真っ只中である。

町並み話



の菅井康太郎さんの執念にも似た努力が実ったといえる。ロケ風景の写真展では、こんな時代から写されていたのかというものや、この俳優さんも佐原に来ていた等、懐かしい場面に出会えた。基調講演もあり、その後昭和初期からの貴重な佐原の祭りの映写が行われ、古き良き時代から祭り好きの気風が映像と共に会場を盛り上げていた。

古建築と文化に触れ充実した二日間、地元の人々も改めて文化遺産を認識できたことは、私達の会としても、大変うれしいことである。これからの佐原を担う若者達、佐原青年会議所の取り組みに拍手を送りたい。

佐倉・成田・佐原を取り上げたテレビ番組の中で佐倉の但馬家を放映していた時、案内所に来ていたお客さんが「アッ！この家は以前僕の家だったんですよ。この台所のカマドでよくお風呂がごらん炊きしていました。懐かしいなあ。」とテレビの前に釘づけになりました。「これもご先祖の導きなんですよ。これとテレビの前の釘づけにならうね。」とあまりの偶然に驚いていました。

「私は維持しきれなくて市へ寄贈してしまいましたが、佐原の皆さんには大変でしょうが頑張りなさい」と話を保ち続けてくださいます。